

## お店拝見～田中進政堂～

山陽小野田市日出新町  
TEL/0836-83-2553  
定休日 毎週日曜  
営業時間 8:30～19:30  
(冬季は～18:00)

中央図書館にほど近い日産化学の向かい側に、老舗の和菓子屋さんがあるのをご存知ですか？ お店の名前は「田中進政堂」。現在、3代目の田中一成さんがお店の看板和菓子のタルトと防長巻を作っています。初代、田中千代一さんは愛媛県今治出身のお菓子職人さんです。大正9年に奥さんと共に小野田に來られました。



現在のお店は千代一さんのお兄さんが、今治で大工さんをされていたのですが、そこから木材を小野田まで運んで建てたのだということです。戦後になって、田中さんのタルトは昭和32年第14回全国菓子博覧会で特等賞を。もう一つの銘菓である防長巻きは、34年の全国菓子大品評会で金賞牌を受賞しました。現在のお菓子の材料もレシピも当時のままだそうです。



いくつか千代一さんのエピソードもお聞きしました。千代一という名前が気に入らなくて、政男という名前を使われていたそうです。それと戦時中は金属製品の拠出（お寺の鐘など）がありましたが、当時の製菓機械は難を逃れたとのこと。また戦後の食糧難の時に、娘さんをお嫁さんに出すことになり、どうにか材料を集めてカステラを持たせたのだとか。とても気骨のあるお菓子職人さんだったんですね。

2代目を継いだ政数さんは、日産化学の経理の仕事をされていましたが、49歳で実家の製菓業に転身し、息子の一成さんは東京のお菓子屋さんで修行を積んだ後、お店を引き継ぎました。今は、下関の農家から嫁いで以来、家業のお菓子作りをずっと手伝ってこられた90歳のお母さんと2人でお店を運営しています。

お店を取材していると、高校生が何人も立ち寄ります。和菓子屋さんなのに？ と不思議に思っておききすると、以前に、和菓子のほかに駄菓子も置くようになってから、近所の子どもたちも来るようになったそうです。タルトや防長巻の常連さん以外に、こんな若い常連さんもいるとは、ユーモアあふれるご主人さんのお人柄と思いました。

余談ですが、山口県出身の児童文学作家の村中季衣さんは、ご主人さんと2歳違いのいとこにあたるそうです。夏休みにはよく遊びに来て、製菓店を題材にした短篇も書かれています。小学生の頃から読書感想文で文部大臣賞を取るほど、文章を書くのがお上手だったとか。意外なところでお店は図書館ともつながっているのですね。

何はともあれ、タルト(¥650)と防長巻(¥850 こちらは希少なため、予約が確実です)を一度、ご賞味くださいますように。

(文：まっし、写真：田中信)

